



沖津信也
おぎつしんや●山形県出身。昭和46年教育学部卒業。中学校長を勇退後は洋画家として活躍中。日展会友、一水会会友、ル・サロン永久会員、日展山形会会員、緑光会会長。受賞歴も多数。

交流の成果

松尾芭蕉がたどった「奥の細道」の世界観を油絵点描で描き続けている洋画家の沖津信也さんは、本学教育学部(現・地域教育文化学部)の卒業生。美術教諭として勤務し、教頭、校長を歴任し、校長時代には卒業生850人以上の似顔絵を描き、「もう一枚の卒業証書」として保護者に贈った先生としても話題となった。画家を志望するほど絵が好きだった沖津さんは、教育に尽力する傍ら、創作活動にも情熱を注ぎ続けた。2000年5月、いつものように油絵制作のために訪れた酒田市の「眺海の森」でのこと。広大な庄内平野を流れる最上川、海に沈む夕日、それらの光景に「暮き日を海に入れたり最上川」という芭蕉の句を感じて衝撃を受け、油絵で描く奥の細道の旅を決意したという。この時の作品は、2003年にフランス・パリのルーブル美術館国際展「美の革命展」でグランプリを受賞している。

その後、約14年の歳月をかけて「奥の細道」の行程を巡り、イメージーションに導かれるままに作品を描き続けた。「作品は多くの人の目に触れることによって生きてくる」との思いから、公募展への出展や個展の開催にも積極的だ。一枚の絵を通してそこに会いや感動が生まれる。それは絵の創作過程にも言えることで、現場にキャンバスを立てて絵筆を動かすと、声をかけてくれる人がいる、創作の様子を見守るギャラリーができる、そんな一期一会の交流が沖津さんの創作意欲を一層掻き立てる。人々との交流と刻々と変化する現場の光や空気感を大切にしたい、と創作の現場主義を貫いている。

沖津さん一家は、奥様も2人のお子さんも本学出身という山大ファミリー。それだけに後輩たちへの思いも強く、学生生活を充実させる上で“交流”を大切にアドバイス。各界、各層、海外も含めたさまざまな場に身を置いてみることは非常に有意義で、ジャンルや世代を超えた化学反応も期待できる。6月には、山形市の文翔館で沖津さんの個展が開かれる。多彩な交流が生まれそうなその場に身を置いてみてはどうだろうか。



山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。

Literature and Social Sciences • Education, Art and Science • Science • Medicine • Engineering • Agriculture



「奥の細道」の行程をたどって十余年、現場主義で描き上げた渾身の作品群。

沖津信也 洋画家



庄内平野を流れる最上川と日本海に沈む夕陽を描いた「夕照最上川」。奥の細道を描ききっかけとなった作品。2003年、カール・セル・ド・ルーブル「美の革命展」グランプリを受賞。



国宝・羽黒山五重塔の前に巨大なキャンバスを持ち込み、現場主義を貫く沖津さん。道行く人と会話し、大勢のギャラリーに囲まれ絵筆を動かす醍醐味、人々との交流が動みになる。



小澤耕平
おざわこうへい●大学院農学研究科生物生産学専攻2年。青森県出身。学会での論文発表の経験が豊富。今春、修士課程修了。東京の建設コンサルタント会社に就職。

櫻庭敬之

さくらばたかゆき●大学院農学研究科生物環境学専攻1年。岩手県出身。環境について学ぶため農学部に進学。初飛行機、初海外、研究を通して様々な体験を得ている。



探求の成果



フィリピン・パラワン州で開催された国際会議で「優秀論文賞」を受賞した小澤さん(右)と櫻庭さん。受賞直後、授与された賞状を手に喜びを噛みしめ、互いの栄誉を称え合った。



論文発表を行う櫻庭さん。あまり得意ではない英語での発表に苦勞したというが、どうすれば伝わりやすいかなどを工夫した甲斐あって結果に繋がった。家族にもいい報告ができた。

ASEAN環境工学会議で「優秀論文賞」を受賞。国内外での貴重な経験を糧に次のステージへ。

小澤耕平 大学院農学研究科生物生産学専攻2年
櫻庭敬之 大学院農学研究科生物環境学専攻1年



水環境工学を専門とする渡部徹准教授の研究室で学ぶ修士課程2年の小澤耕平さんと同1年の櫻庭敬之さんは、昨年11月にフィリピンで開催された「第7回ASEAN環境工学会議」に参加し、研究論文の発表を行った。この会議は、ASEAN工学系高等教育ネットワークプログラムが主催する国際会議で、ASEAN加盟国と日本の研究者や大学院生が、グローバルな環境問題に関する最新の研究成果を発表し、交流する機会として開催されている。今回は、世界16カ国の大学や研究機関から環境工学分野の専門家や学生が集まり、計103題の研究発表が行われた。本学からの参加は初めてで、その2人がいきなり「優秀論文賞」をダブル受賞するという喜ばしい結果となった。

小澤さんは「薬剤耐性大腸菌の起源推定のためのRFLP解析」と題して、タイ王国チャオプラヤ川流域に生息する薬剤耐性大腸菌のグループ化に成功した成果を発表。櫻庭さんは、「フルボ酸の官能基の構成と第一鉄との錯形成速度定数に対する光化学反応の影響」と題して、海中の植物プランクトンの増減をコントロールする方法として鉄に着目した論文を発表した。学部生時代から取り組んできた課題の発展形ということで論文自体に不安はなかったが、英語での発表に苦勞したという。これまでも他大学での実験や学会での論文発表など、渡部研究室ではさまざまな経験ができた。小澤さんはタイと韓国での発表経験もあり、櫻庭さんは初海外が友人の研究サポートで訪れたベトナムだった。

今回の論文発表でさらに経験値を高めた2人は、それぞれ次のステージへ。小澤さんは、東京の建設コンサルタント会社への就職が決まっており、修士論文のラストスパート。櫻庭さんは宮城県南三陸町の土に着目した新たな研究課題に取り組み始めている。今後のさらなる活躍に期待したい。